

★かみえちごモニターツアー

(1) 実施概要

【日 程】平成 27 年 11 月 3 日（火）～11 月 4 日（水）

【参加費】無料

【宿 泊】くわどり湯ったり村（新潟県上越市大字皆口 601）

【現地対応】NPO 法人かみえちご山里ファン倶楽部

【設定料金】30,000 円

【概 要】「日本の原風景に会う旅」と題し、「稲作文化とケの暮らし」・「食」をテーマに、地域文化の体験プログラムを提供する。様々な形で華やかな発展を遂げた現代文化とは対象的な、しかし自然に呼応した、素朴で美しい「ケ」の暮らしに触れ、肌で感じ取ってもらうために、地域の人との触れ合いを大切にしながら、散策お茶飲みや食材調達、郷土料理体験などを行う。

【目 的】①日本的な農山漁村の暮らしや伝統を基軸とした体験メニューの構築と基盤整備。

②現在の日本を形作る「素・祖」を感じてもらうことで地域のファンを増やし、国外の目線からその価値を再評価することで、文化や景観を守ることに繋げる。

(2) 参加者ならびに同行者

○参加者

国籍	年齢	性別	職業	備考
中国	33	F	会社員	家族 A
中国	4	M		家族 A
中国	61	M	定年	家族 A・祖父
中国	65	F	定年	家族 A・祖母
中国	30 代	F	銀行員	家族 B・ベジタリアン
中国	20 代	M	不動産業	家族 B
中国	7	M		家族 B
中国	3	M		家族 B

○同行者

- ・福井 隆（東京農工大学 / 日本エコツーリズムセンター理事）
- ・森 高一（日本エコツーリズムセンター共同代表理事）

(3) プログラム及び概要

◇1日目(11月3日)

時間	場所	内容・説明など
10:27	上越妙高駅	<ul style="list-style-type: none"> ・東京発金沢行新幹線到着 ・ツアー参加者受付
10:45	上越妙高駅	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・地域の地理的情報の紹介 ・2日間の日程の確認
10:45	バス移動	<p>バス移動(中ノ俣集落へ)</p> <p>【南葉林道・中ノ俣牧場跡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅葉を楽しんでもらいながら、この地域の植生(炭焼きに寄る広葉樹の2次林、ブナ林帯等)を紹介。 ・中ノ俣牧場の跡地を見ながら、集落の畜産の歴史や高齢化による閉牧の経緯について説明。
11:35	中ノ俣 (上越市地球環境学校)	<p>ツアー開催地域と、日常の暮らしのマナーについて説明</p> <p>【中ノ俣集落の文化背景や食文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住を自分たちで「まかなう」ことのできる自給力の高さ。 ・人が暮らすことで守られてきた景観や、自然を持続可能な形で利用することのできる知恵と技術。 <p>【日本の日常の暮らしを体験するにあたってのマナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて日本の文化に触れる方へ(食事やトイレ、靴や挨拶などの礼儀作法についてイラスト入りのものを準備)
12:10	中ノ俣集落内の古民家	<p>地元の有志団体主催の収穫祭「芋煮会」で、地元で採れた野菜やお米をふんだんに使った料理を昼食としていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催する地域の方と直接話をする。 ・神棚を見ながら、これから散策で紹介する神社やお寺など日本の宗教について簡単に説明。
13:50	中ノ俣集落内	<p>中ノ俣集落を散策。下記をポイントに中ノ俣集落の暮らしを紹介。</p> <p>【水と暮らし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の力を利用した道具「芋車」の実演。芋車自体も周辺の森の木や竹から作った道具であり、この地域の人々は身の回りのものを上手く使って様々なものを作り出す技術を持っている。 ・上水道が整備される1970年以前は飲料用水として縦井戸や横井戸が使用され、井戸の掘削、維持管理をする技術が残っている。(地勢条件を利用した生存技術) <p>【風土と暮らし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民家の山手側にある消雪池「タナイ」や3mを超える降雪量に耐える民家の構造など、豪雪に耐えるための生活様式を紹介。気候条件に対して合理的なだけではなく、周辺の森林から建築部材などを調達する環境合理性をも併せ持った暮らしがある。

		<p>【稲作文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約 1200 年前に建立したと伝わる気比神社を見学。6 体の御神体を祀っており、毎年春と秋に祭りがある。 ・祭りの際は、本殿が開かれ、神輿を住民が担ぎ、集落中の家々を練り歩く。本殿ではこの地域の里神楽の発祥とされる里神楽の舞が奉納される。春の祭りは、農作物（特に米）の豊作を祈り、秋は収穫に感謝を込めて行われる。この集落は稲作を中心とする民俗文化が色濃く残っており、稲作文化に付随する生活技術や様式が現代においても残っている。 <p>【棚田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角間と呼ばれる約 220 年前に集落民が手堀りで水路を開き、開拓した棚田を眺望できるポイントで紹介。前述の稲作を中心とした民俗文化として、春秋の祭りのほかに稲ワラから様々な道具を生み出し、暮らしに利用してきた文化がある。古民家でお茶休憩をしながらセナコウジ、草履、フカグツなど様々な用途のワラ細工を見てもらう。
15:15	有間川（桑取川河口）	<p>バス移動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑取川鮭採抱所にて、鮭の遡上と漁協の方々による鮭捕獲の実演を見学。
16:30	くわどり湯ったり村	チェックイン。入浴、休憩
17:45	移動（徒歩）	<p>くわどり湯ったり村から平左衛門カフェまで徒歩移動。足元が暗がりのため提灯を使用。</p> <p>途中、くわどり生活デザイン参考館で、古民具などを見学。併設の地域資源を活かした雑貨店で買い物。</p>
18:30	横畑集落（古民家平左衛門）	<p>古民家平左衛門カフェで夕食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で捕れた鮭や野菜を使った料理を提供。 ・かみえちごの地元理事も参加し、ツアー参加者との交流を図った。
20:10	くわどり湯ったり村	くわどり湯ったり村まで送迎

◇2 日目 (11月4日)

時間	場所	内容・写真
8:45	くわどり湯ったり村発	中ノ俣へバス移動
9:00	中ノ俣集落 (角間棚田)	前日の集落散策で紹介した角間の棚田を上から見下ろせる展望所に案内。写真掲示物を使って棚田風景の四季の移ろいを説明する。 【棚田の機能】 ・棚田を維持することは、景観や米を収穫することだけでなく、地すべりを防止し、生態系を保全する機能もある。
9:30	中ノ俣集落 (個人宅)	2グループに分かれ、それぞれ集落散策しながら、地域の重要な情報交換、文化醸成のための場である「お茶飲み」を体験する。また昼にかけての郷土料理体験のための食材調達も行う。 【地域の暮らし】 ・地元の方のお茶や手作りの漬物、煮物、お茶菓子などをいただきながら、この地域の暮らしの様子や文化について(田んぼや畑の仕事、牛飼いの仕事、古民家の構造など)様々な話を聞いた。
11:00	中ノ俣 (金左衛門)	地元講師指導で郷土料理体験を行う。 【「カラアエ」、「ケンサイ」の調理】 ・カラアエ(大根の炒めもの)、ケンサイ(焼きおにぎりにくるみ味噌やゴマ味噌を付けたもの)の作り方を指導。ケンサイのごはんはヌカ窯(籾殻で炊く窯)を使った。 ・郷土料理「のっぺ汁」は時間がかかるため、予め作っておいてもらい、説明のみとする。
12:40	中ノ俣 (金左衛門)	昼食 ・地元講師も交え、作った郷土料理をいただく。「ケンサイ」は囲炉裏端で焼きながら食べる。
13:00	中ノ俣 (金左衛門)	休憩 【縄ない体験】 ・わら細工の基本技術である縄ないを地元講師指導で体験する。
14:00	中ノ俣 (金左衛門)	かみえちご山里ファン倶楽部専務理事による話 【農山村地域におけるNPOの活動について】 ・かみえちご山里ファン倶楽部が活動を進める中で重要と考える、自然の偉大さ、それを活かした暮らしの尊さ、自分と他者が共に生きることなどについての考え方は、中国古典をお手本としたものである。
14:30	中ノ俣 (金左衛門)	振り返り、アンケート記入
15:00	バス移動	中ノ俣→上越妙高駅
15:45	上越妙高駅	上越妙高駅着。解散

(4) ツアー写真



南葉林道で記念撮影



地球環境学校にてスライドを使った地域紹介



芋煮会場の古民家玄関



芋煮会で地元住民の紹介



集落散策・芋車の設置に挑戦



集落散策・縦井戸の見学



集落散策・椎茸のホダ木を見学



集落散策・気比神社見学



桑取川河口にて鮭漁の見学



古民家で地元住民と交流を兼ねた夕食



二日目 棚田説明



お茶飲みで中ノ俣の住民と交流



中ノ俣散策にて軒先の干し小豆



地元のお母さんの指導で郷土料理作り



ヌカ窯を使ってごはんを炊く



郷土料理体験 (カラアエ)



郷土料理体験（ケンサイ）



作った郷土料理を全員でいただく



わら細工体験



集合写真

(5) 参加者アンケートから

1.このツアーであなたにとって「この場所で特別なもの」になったことはありますか？

- ・昔のもの、伝統などをよく引き継いでいるところに感動しました。外国人として西洋人も東洋人もなかなか見られないものがいっぱいありました。提灯を持ちながら夜空の星を見上げたり、昔の建物と現代のものを組み合わせてオシャレなカフェなど。そして藁細工など、中国でも昔にありましたが、今はほとんど残ってなくて、やはり、表面的な観光ではなく、深いところの日本を分かりたい人にとって特別なところでした。
- ・人情が深いということは心の中に残っている。スタッフに皆様も（集落）地域の皆様も、明るく情熱を感じられました。こういう所は旅行の人にとって特別なことです。
- ・すべて素敵。自然、紅葉の色も南仏のようで印象深かった。30 数年の中で提灯を持って歩いたことが一番良かった。初めての経験が多かった。郷土料理作り、古民家体験などの日本の農家の文化が良かった。
- ・日本の農村文化が体験できました
- ・温泉が印象深かった。釣りはちょっと大変でした。地域社会の気風がよく、人々は礼儀正しい、誠意をもって接してくれました。

2.今回訪ねた場所を友達に薦めたいですか？ そうであれば、どのように紹介しますか？

- ・勧めたいと思います。“自然に帰る”ということで特に子持ちの友人に勧めたい。大都会で毎日追われている大人も子供もやはり、自然に触れながらのんびり過ごせる所がいいと思います。
- ・友人に勧めたいと思う。風土人情が一番勧めたい。あとは、景色がきれい、食べ物も美味しいです。
- ・勧めたい（すでにブログを更新した）。アドバンス向けのツアーをしてほしい。ディープに日本文化に触れ合う。豊かな自然の良さ（山も海も）+文化（集落）など。集落に入ったことが初めてだった。「集落文化」の実態に触れた感じがした。
- ・交通不便なので友人にはあまり勧められないと思います。
- ・ここの風土、人情、もてなし、美しい風景を友人に勧めたい。私たちのような高齢者にとって格好な旅行先です。

3.このツアーで不自由だったところがありますか？

提供されればよりよくなるサービス、必要のない要素があったら教えてください。

- ・特に不自由に感じたことはないです。2 で書いたように、子供がいる家族にいいと思います。もっと参加できるイベントが追加できたらと思います。例えば、芋掘り、釣りなど。
- ・ツアーについて、別に不自由に感じたことはないが、山、村落以外には海のところがまだ良さを感じてない。海のいいところをもっと紹介したほうがいいと思う。
- ・トイレとオムツ変え用のゴミ箱が少ない。朝、コーヒーがなかった。自由に行ける café があると良い。遊べる場所と移動を考えると小さな子連れには向いてないかも。個人では来れないところなので、このようにツアーにしてもらえると良い。
- ・ホテルに櫛がない（のが不便でした）。今回のツアーにはとても満足しています。
- ・足が弱い高齢者にとって難しいかもしれない活動内容がありました。総じて、今回のツアーにとても満足です。

4.旅をするとき、どのように情報を集めますか？

出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

- ・ 口コミ、インターネットで収集します。
- ・ 地球の歩き方、事前のネット情報収集（レストラン等の情報まで集めて booking）＋ 口コミ（現地の友人など）、自分のブログで質問する。
- ・ 主に子どもに調べてもらっています。
- ・ 主に友達の紹介。

5.今回のモニターツアーの感想や地域の人へのメッセージ

- ・ とても感動させてくれるツアーとなりました。大変ですが、地域活性化できるように役に立てればと思います。
- ・ すごく伝統文化を大切にしていることを感じ、古くからの生活の知恵を大切に、次の世代と海外に発信して欲しいです。
- ・ この地域の日本人はみんなとても親切でした。
- ・ この地域にいい発展がありますように！

6.今回のツアーの満足度

大変満足：1 満足：2 どちらでもない 不満 大変不満
無記名：2

(6) 現地開催者からの所感（1～3はそれぞれに良かった点、悪かった点）

1.ツアーの企画、内容について

- 受入側として、娯楽を求めて参加する観光客ではなく、「地域を尊重し、日本文化の深いところを学ぶ意識のある人」に伝えるための企画、内容であったが、その点で高い評価が得られた。
- 今回はたまたま理解のある参加者だったので評価が得られたと思うが、受付の段階でその意識を確認することはなかなか難しいため、一歩間違えば利便性や学習要素の部分で、参加者のイメージとのギャップによるクレームにもつながりかねない。来て欲しいターゲットをピンポイントで呼び込むことの難しさを感じた。

2.参加者への広報、集客について

- × 今回は日本エコツーリズムセンターを通して首都圏での広報、集客とその効果を期待し、現場での広報の動きは当初行わなかった。しかし、予定されていたサイトへの掲載や、準備した広報媒体の利用もほとんどなかったため、〆切間際になって自分で声かけを行ったが、集客には至らず、主体的な動きが必要だったという反省点が残る。
- 首都圏方面での広報ツールを確保する課題がある一方、上越市内を広報で回る中で、日本在住の外国人から「友人が来日する際に、このようなツアーを是非紹介したい。普段は街場でない奥地は、交通手段が限られ、不安なので行くことができない。」「もう少し告知が早ければ、興味のある人がたくさんいたのに」という声が聞かれ、都心に向けた直接的な広報でなくとも、地方在住の外国人にうまく伝われば、集客につながる可能性を感じた。

- × 実施ぎりぎりまで参加者が集まらなかったことがあり、前述のターゲットとのギャップを妥協せざるを得なかったことや(大人向けのツアーだったが子供も受け入れた)、仲介者があることで参加者と直接連絡が取れず、コンセプトを伝える上では重要な役割を果たす広報媒体や詳細資料が参加者に直前まで届かなかったこと、参加者の詳細情報が当日までわからなかったことなど、かなりリスクのある集客だったといえる。

3.当日の運営について

- × 車での移動が多く、山道でもあるため特に子供が車酔いをし、行程にも影響が出た。見学場所を優先する部分と移動のバランスを考え、なるべく効率良い移動を考える必要がある。
- 想定していない子供を含む家族連れの参加で労力を割かれた部分が多かったが、全体的な行程にある程度の余裕をもたせていたため、予定を崩さず実施できた。
- 協力者として依頼した地元住民(15名程度)や関係各者には事前に十分連絡を取っていたため特に問題なく、地域に大きな負担をかけることなく実施することができた。

4.今後に向けて課題と展望

- ・費用対効果ならびに、労力に見合う成果(ツアーを通して地域のファンを増やし、外国からの再評価を受けることで、国内での文化・景観保全にも寄与する)がどれだけ見込めるかが今後の実施の鍵となる。今回のモニターツアーを受けて、実施における費用面、労力面の試算をした上で、以下、今後開発したいプログラムと合わせて検証を行う。

【今後開発予定のプログラム】

①子供、家族連れに特化したプログラム

→今回の企画は大人向けであったが、ニーズとしては「家族連れで楽しみたい」というものや「子供に体験をさせたい」という声があったため、もっと易しく、時間的にもゆとりのあるプログラムも準備したい。

②海・山両方の自然と文化を体感できるプログラム

→今回は山間地域が滞在の拠点だったが、参加者からは「海も見たい」という強い要望があった。海即山というのがこの地域の特徴でもあるため、それを存分に活用できるものにする。

③日帰り単位での現場受け入れのみのプログラム

→今後のツアー実施においては、旅行代理店や、旅行業取扱いの資格を持つ団体との連携の中での実施が現実的である。そのため、他のツアーの一部として組み入れてもらえるようなプログラムを準備する必要がある。

- ・今回、英語による案内や資料を準備していたが、参加者は在日の中国人で日本語でのガイドを希望されたこともあり、英語での案内についてのモニタリングや通訳が入った際の時間的なシミュレーションができなかった。スタッフが対応するには現段階ではかなりの不安があり、最低限の言語能力の習得や、通訳できる人材の確保が大きな課題である。

記入者：桑原 鉄太郎・河野 充美・三浦 絵里

(かみえちご山里ファン倶楽部)

★北海道モニターツアー

(1) 実施概要

【日 程】平成 27 年 11 月 4 日（水）～11 月 6 日（金）

【参加費】無料

【宿 泊】村瀬農場、カントリーパパ（ファームイン）

【現地対応】NPO法人北海道ツーリズム協会 武田 耕次

【協力団体】NPO法人ねおす、株式会社北海道宝島トラベル

【設定料金】50,000 円

【概要】食糧生産基地北海道。十勝地域の食物自給率は 1,200%あり日本の食卓を支えている。これらの畑は、大雪山・十勝岳連邦から太平洋に向かってなだらかに広がる十勝平野を開拓し、近代農業により発展してきた。これからは持続可能な社会に向けた環境に優しい取り組みがなされている。このツアーでは、十勝の自然と開拓の歴史に触れ、この土地に適した農業を理解する。更には十勝の人が描く持続可能な未来を共有する。旅のスタイルはコテージでの滞在型。1 グループ 1 コテージで、牧場での暮らしを体験し、牧場を拠点にテーマにあわせて鹿追町の各所をめぐる。

【目的】ファームインの反応をみる。ストーリーが上手く伝わるかを検証する。地域DMOと広報DMOの役割分担とその成果を検証する。

(2) 参加者ならびに同行者

○参加者

国籍	年齢	性別	続柄	備考
マレーシア	51	F	妻	ゼネラルマネージャー、広告業
〃	49	M	夫	マーケティングコミュニケーションコンサルタント
〃	57	F	姉妹	主婦
〃	64	F	姉妹	元看護婦長
〃	43	M	父	マネジメント
〃	42	F	母	主婦
〃	14	M	子	中学生
〃	10	M	子	小学生
〃	9	F	子	小学生

○同行者

- ・武田 耕次 氏（NPO法人北海道ツーリズム協会 理事長）
- ・川田 美沙 氏（株式会社北海道宝島トラベル）
- ・武田 恵 氏（株式会社北海道宝島トラベル）
- ・荒井 一洋 氏（NPO法人ねおす理事 / 日本エコツーリズムセンター世話人）
- ・伊藤 博暁（日本エコツーリズムセンター事務局）

(3) プログラム及び概要

◇1日目 (11月4日)

時間	場所	内容・説明など
09:30	札幌市内	前泊している各ホテルで5名をピックアップ
10:30	新千歳空港	空港で5名をピックアップ
10:30	バス	オリエンテーション ・自己紹介 ・3日間の日程の確認 ・ツアーの目的、注意事項の共有など
12:00	そば屋「しかめん」	昼食 鹿追特産の蕎麦を味わう。名物「こぼ天そば」。自由に追加注文。
13:30	バイオガスプラント	【レクチャー】 ・ジャガイモ畑、ビート畑。開拓の歴史（明治・昭和初期）。 ・日本の食糧基地北海道、効率的大型農業での最先端。 【バイオガスプラント見学】 ・家畜の糞尿を使った発電施設。農業の副産物でエネルギー自給率を高め、持続可能な地域社会に貢献。 ・余熱を使ったマンゴー栽培、チョウザメ飼育で様々な活用方法を検討。十勝管内だけでなく研究事例としてそのモデルを全国で活用。
17:30	大草原の小さな家	【ウェルカムパーティー】 ・地元の農家さん、農業を支える行政の方、グリーン・ツーリズムで十勝の農業を世界に発信する北海道ツーリズム協会のメンバーが集まり、夕食。ジャガイモと放牧豚がメイン。ビートの天ぷら・きんぴらで十勝の農業を食した。
20:30		【チェックイン】 ・カントリーパパと村瀬牧場のコテージに宿泊。 ・コテージの使い方レクチャー、翌日の予定確認。 ・各グループで思い思いに過ごす。 ・困りごと、質問などは各牧場で対応。手を掛け過ぎない。相談があれば応える方針で、ゲストの主体性に任せる。

◇2日目 (11月5日)

時間	場所	内容・写真
～9:00	各コテージ	【自由散策】 ・コテージの周りの牧場を自由散策。キャッチボール、写真撮影など思い思いに過ごす。 【朝食】 ・でーでーぽっぽのヨーグルトを出す。
9:30	然別湖	【バス内レクチャー】ボレアルフォレスト 阿久津氏 ・十勝平野の全体像、開拓により多くの木が切られた。 ・明治時代の入植の頃の森を見に行き、原始の北海道をイメージする。

		<p>【原始の森街路ウォーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 然別湖の特徴、トドマツの森、木と動物の関係について。 ・ ナキウサギ探し、雪あそび。 <p>【コーヒーブレイク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森で時間を過ごすと、森に慣れてくる。感性が開けてくる。この経験を繰り返して森とつながってほしい。森とつながると今まで気づかなかったが見えてくる。森から出ても同じ。様々なことに気づくだろう。午後は農業を深く体験する。この感覚を大切に農業に触れてほしい。
11:30	三部牧場	<p>【バターとピザづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツリーハウスの下で牛乳を振ってバターを作る ・ ツリーハウスの中で生地に食材を載せてオリジナル石窯ピザを作る <p>【昼食と食後ののんびりタイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 羊と遊ぶ、薪を割る、ブランコ・ハンモックで過ごす、周りを散歩するなど、各自が自分の興味ある活動を楽しみ、牧場の暮らしを体験。
13:30	村瀬農場	<p>【農業体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビートタッピング作業。（ビート堀りと葉っぱの切り落とし） ・ 様々な用途のトラクターの見学、試乗。 ・ どこまでも続く防風林、十勝の農業についてのお話。 ・ そのほかの季節の農作物について。
15:00	村瀬牧場	<p>【ビート糖蜜づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビートの皮をむき、味見。 ・ 細かく刻んで薪ストーブで沸かしたお湯にかけて煮詰める。 ・ 薪割り、農家さんとの団らん。 ・ 砂糖がどのようにできるかを体験。出来るまでの行程を体験し、砂糖になるまでにどれほどの手間がかかるかを実感。
16:00	コテージ	<p>【休憩】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自のコテージで牧場の生活を楽しむ。
17:00	カントリーパー	<p>【夕食】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿追の食材でのディナー。 ・ お互いの経験を共有。
21:00	コテージ	<p>【自由時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 星空観察

◇3日目 (11月6日)

時間	場所	内容・写真
～9:00	各コテージ	<p>【自由散策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コテージの周りの牧場を自由散策。写真撮影など思い思いに過ごす。
9:30	My Stable 大草原の小さな家	<p>【引き馬とトレッキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬場で、馬の歩かせ方を学ぶ。 ・30分程度のトレッキングに出かける。 ・十勝平野の開拓に馬は深くかかわっている。60年前はほとんどの農家で馬を飼っていたが今はトラクターに変わった。このような歴史もあり、馬は地元の人に深く馴染んでいる動物である。 <p>【牧場散策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豚や馬の見学。 ・十勝の農業は畑作だけではなく畜産も多い。 <p>【馬の道散策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5km程度の馬の道を散策。 ・防風林の中を歩き、防風林の役割、牧草地や畑の植物を学ぶ。
12:00	海老金	<p>【昼食】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿追の食材を天ぷらにさせていただく。 ・3日間のふりかえり
13:30	出発	札幌へ向かって移動
17:00	札幌市内	解散

(4) ツアー写真



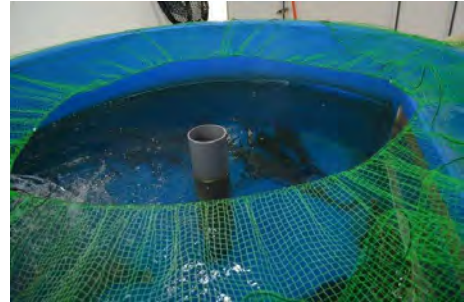
十勝平野から見る大雪山国立公園



入植当時、馬を使った開拓の様子を説明



バイオマスプラント見学



発電の余熱を使った温水でチョウザメの飼育



村瀬農場のコテージにチェックイン



コテージの中でリラックス



鹿追の食材でウェルカムパーティー



出発までの時間、ゆっくりと散歩



大雪山国立公園・然別湖へ向かう途中



然別湖畔で大雪山の自然について学ぶ



残雪での雪遊び



初めての雪



予定コースが閉鎖のため道路を歩いた



三部牧場。ランチ会場はツリーハウス！



バターづくり



石窯ピザづくり。自分の好みのトッピングで



広大な畑の管理には様々なトラクターが活躍



ビートの収穫



十勝の農業を体感



収穫したビートを薪ストーブで煮詰める



My Stable でホーストレッキング



馬のいる生活は今も十勝に残っている



3日間のふりかえりと意見交換

(5) 参加者アンケートから

1.このツアーであなたにとって「この場所で特別なもの」になったことはありますか？

- ・ 1. バイオマス工場 2. バター作り この二つは私にとって特別です。
他には美味しい郷土料理、素晴らしい英語ガイドさんです。
 - ・ ツアー全部がよかったです、特によかったのはバター作りと森や公園でのハイキングです。
食事やコテージも素晴らしかったです！
 - ・ ピザをツリーハウスで作ったのが一番よかったことのひとつです。村瀬農場のコテージでのファームステイもスペシャルでした。テンサイの収穫は私の国では経験できないことです。このツアーは私たちを原点に立ち返らせてくれました。バイオガスは実に有益です。
 - ・ はい、いろいろな企画は楽しくて、興味深くてよかったです。いちばんよかったのはトラクターを運転したことです。
 - ・ ここで特別だったのは新しい友達ができたと、ガイドさんと自然の中を歩いたこと、雪で遊んだり馬に乗ったりしたことです。
 - ・ はい、乗馬したことです。とても面白くてワクワクしてすごかったです。
 - ・ 北海道の食べ物。いままで人生で食べたなかでいちばんおいしいカボチャ。地元産の本物の食材。360度の信じられないような風景。旅の企画全てを楽しみました。
 - ・ この旅で、日本、特に北海道における休暇の過ごした方についてとてもよい知識が得られました。北海道人のもつ天性のやさしさ、あたたかなおもてなしによって、素晴らしく爽快な体験をすることができました。新鮮な野菜を使ったほんものの農家料理はどれも美味しかったです。特にカボチャは最高でした。企画された全てを楽しむことができました。
 - ・ ツリーハウスとピザ作りがとてもよかった、バター作りも楽しかったです。自分の子供たちが楽しそうに木を切ったり、ブランコをしたりするのを見て不思議な気持ちになりました、「上質な時間」とでもいいでしょうか。
- ピザ作り大会のようなお楽しみをしたらいかがでしょうか（例えば、ピザを作ってからピザの説明（具材、デザイン、見栄えなど）をして点をつけ、勝った人がビールをもらえる、とか）。

2.今回訪ねた場所を友達に薦めたいですか？ そうであれば、どのように紹介しますか？

- ・ ツアー内のどの企画も友達にオススメできるものです。学べて楽しめるツアーだと紹介したいと思います。私はこのグリーンツアーで多くを学びました。
- ・ はい！ー湖畔や山、郷土料理、サッポロビール！ー
屋外での活動と美しい景色。
- ・ もちろんです。
1、フェイスブックに撮ってきた写真を投稿します。友達が見られるように。
2、友達や家族に口コミで私の体験をシェアしたいと思います。
- ・ うーん、そうですね。ここで何をしたかを話したいと思います。
- ・ はい、お天気のこと、雪があること、楽しく過ごせて新しい友達ができること、日本の歴史や日本語が覚えられることをお友達に教えてあげたいです。
- ・ 北海道グリーン・ツーリズムはいいよ、お父さんやお母さんにもっと何回も連れてきてってお願いしたらいいよ、って教えてあげたい。
- ・ はい、もちろんです。フェイスブックに投稿して友達や親戚に私たちのこの旅行を写真で紹介したいと思います。

- ・はい、必ず友達や親戚に勧めて、北海道、特に人がどんなに素晴らしいかを伝えたいと思います。ソーシャルメディアを使います。
- ・はい、私はファームステイは忙しくてストレスのたまった親が子供たちと絆を確かめ合う時間を過ごすのにとっても向いていると思います。オーガニックフードや乗馬体験、バイオガス工場見学などとてもよかったです。(ビデオのストーリーは改善の余地あり、特に大事なところをパワーポイントでプレゼンするなど) ファームステイは若い人、大人、そしてお年寄りにみんなが楽しめるレジャーだと思います！

3.このツアーで不自由だったところがありますか？

提供されればよりよくなるサービス、必要のない要素があったら教えてください。

- ・これ以上に良くしようとするならば、歴史や訪問先について英語と中国語（北京語）の情報がもっとほしいです。
- ・英語の標識や説明書、通訳、地元のガイドが必要。
- ・唯一不便だったのは、機械類（電子レンジや洗濯機など）の説明書が日本語で書かれていたことです。提案：別に英語のマニュアルを準備する。
- ・おみやげ屋さん連れて行って、夕飯はもっと遅くしてほしい。
- ・十分に良かったです。もっとよくなると思います。
- ・英語はもっと大きな声ではっきりと。ごはんはもっと少なくてもいい。もっと写真を撮って。もっと一緒にいて、プリンとアイスとケーキをもっと食べよう！
- ・不便はありませんでした、素晴らしいツアーガイドさんでした。
- ・不都合なことなどありませんでした。すべてがほぼ完璧でした。期待はずれなことは思いつきません。めぐみさん、めぐみさん、みささん、その他のみなさんも。素晴らしかったです。
- ・説明書やメニューに英語のものがあればよかったです。あとはパーフェクトでした。
提案：地元の珍しい植物がたくさんあったので、葉っぱを拾って葉にして参加者がおみやげに持ち帰るなんていうことも企画に加えてはいかがかと。朝食用にじゃがいも、さつまいも、トウモロコシをキッチンに置いておいてもらえれば、一泊以上滞在する場合、朝ごはんをいろいろとアレンジできると思います。

4.旅をするとき、どのように情報を集めますか？

出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

- ・主にインターネット経由、ie、グーグル検索。友人の体験談。
- ・ビジュアルツアーがとてもよいです。ie バイオマス工場見学／キャビア養殖／グーグルは私の友達／ユーチューブ／地図／SNS ミーティング／友人に聞く
- ・インターネットで情報を集めます。日本旅行のサイトや日本に来たことのある友達にきく。旅行パンフレットも役に立つ。
- ・情報は集めません。脳ミソが記憶します。
- ・お父さんとお母さん！
- ・ソーシャルメディア、フェイスブック、友達
- ・姉がすべての計画をやってくれました。めぐみさんとeメール、アプリと電話で。
- ・グーグルをチェック、トリップアドバイザーやホテルのレビューを見る、旅行代理店。たまにフェイスブックなど友達のオススメの口コミ。

5. 今回のモニターツアーの感想や地域の人へのメッセージ

- ・清潔で、きちんとしていて、親しみやすく。その良い仕事をどうか続けてください。
- ・素晴らしいツアーです！ エコツーリズムの考え方ー歴史、食べ物、エコの技術、未来の計画を紹介するーがとても気に入りました。この地をローカルなまま保ってください。観光客を受け入れるために変えたりしないでください。郷土料理、地元の習慣など。
- ・ワオ！ すごい！ 地元の方々は私たちを迎えるためにとてもいろいろやってくれました。本当にあたたかく、オープンで親切でした。この三日間、私はほんとうに、ほんとうに、幸せでした。
- ・農場はものすごく現代的で、私が思っていたのとはまったく違っていました。地元の方々は親切で、礼儀正しく、優しかったです。大好きです。
- ・はい、とても親切にしてくれて、助けてくれて、速くしゃべって、礼儀正しかったです。
- ・村瀬牧場のオーナー、ひろしさんへ。扇風機のスイッチをオンにしてくれたらと思います。お兄ちゃんに運転させてもらったトラクター、それからあなたが作ったかわいいコテージも大好きです。
- ・素晴らしかった。心優しく、フレンドリーで親切な、とても謙虚な人々。
- ・このツアーは私が経験した中でいちばんのものでした。さまざまな活動はよく計画され、いま北海道にあるものが見事に反映されていました。情報は老いにも若きにも十分でした。私が滞在したコテージは山の中の小さな村の、素晴らしく澄んだ空気の中にある、いわば「夢のコテージ」でした。優れた、優しい人々。彼らは素晴らしいし、そうであることを知ってほしいです。その姿勢を持ち続けてください。旅人はみな、それが嬉しいでしょう。わたしは旅行者がたくさん来て恵みを運び、あなたの農場をうるおすよう祈っています。
- ・村瀬ファームのやりかたは正しいと思います。彼はマレーシア人や香港人などを雇っていますが、それにより彼も家族も外国の人々が何を好み、好まないかを知る手がかりになっているからです。また、通訳の助けにもなり、彼はさらに外国からの旅行者を受け入れ、魅了できるようになっていきます。

6. 今回のツアーの満足度

大変満足：6 満足：2 どちらでもない 不満 大変不満
 無記名：1

(5) 現地開催者からの所感 (1～3 はそれぞれに良かった点、悪かった点)

1. ツアーの企画、内容について

【よかった点】

- ・ バイオマス見学を入れることで、学習する楽しさを提供できたと同時に、農村の先進的な取組を紹介することができた。
- ・ 旅程の内容が、詰め込みすぎず、かつ間延びすることもなく、心地よく過ごしてもらえる時間割になっていた。それぞれの訪問場所でゆっくりと過ごすことができたので、農村の生活の一端を体感・理解していただけた。
- ・ 宿泊場所であるカントリーパパおよび村瀬ファームのコテージが設備・ロケーションとも素晴らしく、宿での休憩時間すら楽しんでもらえた。
- ・ 直前の台風による然別湖トレッキングコースの変更や、最終日に時間の余剰が生まれた際に急きょ近辺の散歩道や地元のケーキショップへ案内するなど、臨機応変な対応ができた。

【悪かった点】

- ・ 11月の実施だったため、収穫体験に甜菜畑を訪れ甜菜シロップの作り方を簡単にレクチャーしたが、本来の楽しみ方である「自分で採ったものをその場で味わう」体験ができなかった。
- ・ 子供を含む5人家族と、大人のペアが2組という組み合わせだったため、体験プログラムが子供中心になってしまう場面があった。
- ・ 宿やレストランに英語表記がなかった。今回のツアーはスタッフも多くフォローできたが、個人で訪問した場合にどう対応するかが見えず、再訪や知人への紹介の際に、不安要素となったかもしれない。
- ・ 参加者の一人から事前にナッツアレルギーの申告があったにも関わらず、現場でナッツ入りのパンを提供してしまった。ナッツアレルギーは重篤な症状を引き起こすこともあるため、今後はより慎重な対応が求められる。

2. 参加者への広報、集客について

【よかった点】

- ・ 自社サイトとSNSを活用することで期間内に必要数を集めることができた。

【悪かった点】

- ・ 募集期間からツアー開始日までの期間が短く、仕事の休みが取れないからと諦める申込者が複数いた。また、一般応募のみで集めるべきなのか、クチコミ力を重視して情報発信力のある人に声掛けするべきなのか、ターゲットの選定が曖昧だった。(最終的には一般応募のみで選考)

3. 当日の運営について

【よかった点】

- ・ コーディネーターの武田氏の手配および当日のマネジメントのおかげで、ストレスなく旅程を進めることができた。
- ・ 通訳案内士を含めスタッフ5名でアテンドし、うち4名が英語スピーカーだったため、それぞれの参加者によく目が行き届き、お客様との距離が縮まった。
- ・ 参加者全員が「このツアーを楽しもう」というポジティブな姿勢でいたため、現場の一体感を生み出すことができた。

【悪かった点】

- ・甜菜シロップの作り方をレクチャーする際、肝心の収穫した甜菜を畑に忘れてきてしまった。

4. 今後に向けて課題と展望

【課題】

国内有数の食料生産基地である十勝に位置する鹿追は、広大な畑を有し、北海道内での農村体験にふさわしい土地である。町からは十勝連峰が臨めるほか、今回トレッキングを実施した然別湖は、湖上露天風呂が登場する冬のイベント・然別コタンで近年海外でも知名度を上げている。町内には宿泊場所が乏しいが、設備の整ったログハウスやツリーハウスを宿として提供する有志がおり、車で 30 分足らずの新得町には温泉宿もある。その他、本格的な犬ぞり、乗馬、熱気球など人気の高いプログラムも催行可能で、観光素材には非常に恵まれている。しかし、鹿追町の知名度は低く、町内では英語による案内がほとんど見受けられない。また、目玉となる体験プログラムを通年で有することから、体験プログラムの前後に 1、2 泊してもらうような誘致も考えられるが、この場合は旅行者にある程度自主的に動いてもらえるよう、多言語の周辺地図やレストランメニューを用意したい。

すでに販売できる商材がある程度揃っている鹿追町の今後の課題は、海外に向けた PR と受け入れ態勢の整備である。

【展望】

宿泊を伴う農村体験に関しては、趣旨に賛同したお客様のみを迎えて丁寧にケアするようなツアーを主としたい。受け入れる人数は制限されるが、鹿追町のファンを確実に育成することで、その口コミと農村体験の内容に共感した人が鹿追町を目指して訪れるような仕組みが、息の長い集客に繋がるように思う。

ターゲットとしては、公共交通機関が不便な土地柄であるため、特に雪のないシーズンにはレンタカー利用者も視野に入りたい。また、レンタカー利用者にはリピーターが多く、より深く北海道を知ることができる農村体験に興味を持つ可能性が高い。ただし通訳者が同行しないため、宿、店舗、レストラン等における英語の案内を充実させることと、問題発生時の対応についての準備が先決である。

情報発信の方法としては、独自のサイトのアクセス増には多大な時間と労力を要するため、TripAdvisor 等外部サイトに露出し、別途独自のサイトに詳細な情報を掲載する方法が望ましい。尚、インバウンド客に対しては、アクセス情報を充実させることを忘れてはならない。また、体験旅行は国内・国外を問わず今最も注目を集めている商材であるため、旅行会社を通じた集客も効果的だと思われる。その際旅行会社は、闇雲にツアーを売ることをせず、顧客のニーズと鹿追のツアー内容のマッチングを見極め、ツアー中にインバウンド客・現場スタッフ双方が戸惑うことのないよう、細心の注意を払うべきである。

記入者：川田 美沙（株式会社北海道宝島トラベル）